

# ◆天皇賜盃 第94回日本学生陸上競技対校選手権大会◆

日程：9月11日～9月13日

於：ヤンマースタジアム長居

・記録

## 【男子】

種目	順位	氏名(学年)	決勝	予選	備考
800m		植田 悠貴(3)	-	1' 56" 01	

## 【女子】

種目	順位	氏名(学年)	決勝	予選	備考
400m	4	西田 文香(4)	54" 24	54" 42	
100mH		宮寄 仁美(2)		14" 67(-0.3)	
400mH	3	西田 文香(4)	58" 01	58" 17	★自己新 学内新 兵庫県新
三段跳び		永久 実伽子(M1)		DNS	
4×400mR		米田-西田-明瀬-上岡		3' 51" 57	歴代4位

## 各選手コメント

新 64 回 西田文香(400m,400mH,4×400mR)

2種目とも優勝を狙っていましたが、結果としては400m4位と400mH3位でした。



完全に実力不足です。調子も良く自己ベスト近くで走ることが出来ました。それでも勝てなかったということは、まだまだ努力が足りなかったのだと思います。あとは国体の成年女子400mに出場します。最後の最後、53秒台を狙って、決勝目指して、兵庫のために走ります。

たくさんの応援、力になりました。ありがとうございました。

いました。大学最高峰の試合は怪我持ちで戦えるほど甘くはありませんでした。今年は悔しい結果となってしまいましたが、来年にもチャンスはあるので1年間しっかりと練習を積み、同じ舞台でリベンジしたいと思います。



4×400mR

左上：米田-西田 右上：西田-明瀬  
左下：明瀬-上岡 右下：上岡

新 65 回 植田悠貴(800m)



怪我が治りきっていない中での走りとなりました。7月の終わりから左足を痛めており、治りきらず無理矢理全カレに合わせる形となってしま

新 65 回 米田香澄(4×400mR)

全日本インカレで4×400mリレーの1走を走らせていただきました。初めての1走ということで、緊張しましたが、大きな舞台で走ることができ、とても楽しかったです。

来年もリレーでの出場ができるようにチーム一丸となり、切磋琢磨して練習がんばりたいと思います。

### 新 66 回 明瀬優香(4×400mR)

マイルの 3 走で出場させていただきました。

私にとって初めての全国大会でとても緊張しましたが、最後までしっかり粘って前に突き放されずに 4 走にバトンをつなげることができてよかったです。

今回はとてもいい経験をさせていただきました。来年はマイルも個人でも全カレに出場できるよう、これから頑張っていきたいと思います。

応援ありがとうございました。

### 新 67 回 上岡 咲(4×400mR)

初の全カレで大学初のマイルでしたが、最低限の目標では走ることができました。

これからはチームを引っ張れるような存在になりたいです。

### 新 66 回 宮寄仁美(100mH)

今年度初めて全日本インカレに 100H で出場させていただきました。日本トップレベルの選手ばかりで緊張しましたが、このような大きな舞台で走れたことが自信になりました。



今回は予選落ちしてしまいましたが、来年はもっと全国で勝負できるよう、練習に励んでいこうと思います。応援ありがとうございました。



◆応援ありがとうございました。◆

9月11日(金)～13日(日)の3日間、大阪長居競技場で第94回日本インカレが開催された。昨年に続き国立競技場改修の影響で長居競技場の開催である。わが神戸大学からは、男子800mに植田主将、女子400mと400mHに西田文香、100mHに宮寄仁美、女子1600mリレーに西田、米田、明瀬、上岡が出場した。心配された天候も台風18号が去り温度湿度とも下がった好コンディション。今回のインカレの見どころは、世間的には桐生君の100m復活レースであること、また世界陸上出場選手たちの走りっぷり、学内では4年間当部をリードしてきた西田文香のインカレでのラストランということであろうと思う。さて競技順に競技を見ていこう。

初日11日(金)には、いきなり西田が登場。予選は全体4位で決勝へ。調子は良さそうだ。午後の決勝では9レーンに回ったが、この影響を少し危惧した。しかし前半からいいペースで中段につけ、第3コーナーからのカーブで上がって行き、5位で残り100mとなった。懸命に追い込むも3位にわずかではあるが及ばず4位となった。しかしタイムは54秒24の(PB54“23近国)で彼女としては良いレースだったのではないか。レースでの出来にバラツキが少ないのが西田の強みでもある。良く頑張った。体が切れているように感じたので400mHが楽しみになってきた。

2日目は、女子100mHの宮寄、女子400mHの西田、男子800mの植田、女子1600m(4X400mR)の4人が順に登場、賑やかな1日となった。先ず9時40分から開始された1組、宮寄は7位でタイムは14秒65と自己記録に0秒5及ばず残念な結果だったが、まだ2年生、ここへ来るだけでも大したものだ。

続いての女子400mH予選の西田は最初からリラックスして走り、タイムは全体1位の58秒17。楽に走ったように見えたがタイムは出ている。好調を感じさせ決勝への期待が膨らんだ。男子800m予選の植田は関西インカレ後の故障が完全に癒えておらず練習不足が懸念された。案の定というか、600mまでは2位につけ、期待させたが650mあたりで急に失速。最下位に終わった。本人に聞くとやはり練習不足で不安だったが、行けるところまで行ってみようと思って走ったのが600mまでの勇気を持った食らいつき、その心意気や良し!、である。女子1600mリレーは、関西インカレでギリギリ参加標準の3分52秒を切って滑り込んだが、エースの西田とリレーを走るのもこれが最後、各自思いを持ってスタートについた。1走は米田。何故米田が1走かというと、2走の西田は絶対。2周目のコーナーで前へ行くのはスピードが要り、2走終了時点で良いポジションにいる、というのが前提。4走の上岡は1年生ということもあり、気楽に走らそうということだったらしい。問題は米田と明瀬のどちらが1走になるかだが、1600mリレーの1走は各走者の間が大きく開いており。全体での位置が分からないまま2走に渡すという非常にペース間隔が要求される難しい役割だ。真実は二人でジャンケンをして勝った方が、プレッシャーの少ない3走に回るということにしたそう。それで勝ったのが明瀬だったのだが、1走を走った女子主将副将の米田は順位こそ最下位だったが58秒での好タイムでカバーし西田につないだ。よく最後まで粘ったと思う。2走の西田は例により爆走。本当にリレーに強い。3人抜いて僅差の5位で明瀬にバトンを渡した。3、4走の明瀬、上岡は800mランナーである。やはりコーナーの飛び出しでは苦勞していたように思うが、持ち前のスタミナで、順位を落としながら粘って7位でゴールした。タイムは3分51秒57と学内記録まであとわずか、しかし関西インカレに続き再び参加標準を切ったのは見事だ。今後は西田が抜けて4秒程度は苦しくなるだろうが、800mランナーの3人は伸び盛り。頑張っって西田抜きで参加標準に迫ってほしい。

なお、2日目は今回の目玉の桐生君が400mリレー決勝と100m決勝に出場。100mの準決では70m

から流しての 10 秒 30 (全体トップ) で、他との違いを感じさせた。さて注目の決勝であるが、スタートからスムーズに走り切って 10 秒 19 で復活を印象付けた。ホッとした陸連関係者も多かったのではなかろうか？ 昨年の織田記念の 10 秒 01 の時の爆発的な加速にはまだまだだが、世界陸上で不振だった男子陸上界に光がさしたように感じた観客も多かったろう。カメラの放列が凄かった。また男子 5000m では留学生 3 人に服部弟 (東洋大)、一色 (青山学院大) の若手エースが食い下がり、最後の 200m で爆発的なスパートを見せた服部弾馬君が 13 分 38 秒 45 の好タイムで優勝したのも印象的だった。更に女子 400m リレー(4X100mR)では最後立命館大が甲南大を逆転、また最終日の女子 1600m リレーでも大阪成蹊大の高校チャンピオンの新人で世界陸上の 1 走青山がアンカーで見事逆転し完勝。他種目を見ても関西の女子のレベルが上がっているのに対し、関東の女子が一時に比べ弱体化しているように思えた。

いよいよ最終日である。決勝種目が目白押しで忙しい。今日は 400mH 決勝に西田が登場する。400mH は関西インカレでは武庫川の藤原未来が逃げ切り、日本選手権で西田が雪辱。本年 1 勝 2 敗で決戦の時を迎えた。藤原のベストは 57 秒 78、西田のベストは 58 秒 03。と少し差があるが、今回の西田の調子なら互角の勝負になると見た。更に藤原は 1 時間前に 100mH の準決を走っているが、西田は 400m をリレーも入れて 4 本走っている。これらがどう影響するのも気に掛かるが二人ともそれくらいで疲れるような練習はしていまい。そういう中でどう走る かまで高めてきた二人だと言えよう。レーンでは西田が 5 レーン、藤原が 6 レーンと隣同士。先行が予想される藤原を見ながらレースが進められるので、西田にとっては良いレーンをもらったように感じたが西田はどう思ってスタートラインに立ったのだろうか？ いよいよスタートである。応援がものすごい。予想通り藤原が素早く飛び出し先行したが、西田は遅れることなく追走。最終カーブも接戦で回り。第 9 ハードルではほぼ並んだ。第 10 ハードルを迎えて、西田の頭には 17 歩か 18 歩かで一瞬迷いがあったらしい。結局 18 歩を選択したが、結果第 10 ハードルで体が僅かに浮き、最後のスパートのきっかけが弱くなったらしい。事実珍しくゴール前で足が止まった。そこを好調の筑波大の伊藤にも刺され 3 位に終わったが、タイムは 58 秒 01 の自己新・学内新。惜しくも優勝と 57 秒台を逃す第 10 ハードル前の選択だったかも知れないが、西田は全力を出し切って晴れ晴れとした顔をしていた。藤原は 57 秒 71 の自己新での完勝。1 時間後の 100mH 決勝でも 0 秒 01 の差で優勝を飾った。西田も好調と見たがライバルの藤原もそれに増して好調だったということか。いいレースを見せてもらった。かくして 2015 年の日本インカレへの神戸大学陸上部のチャレンジは終わった。なお、西田は 10 月 4 日に和歌山国体の成年女子 400m に出場する。最終学年になってからも自己新を連発。まだまだ成長途上だ。夢の 53 秒台に是非突入してほしいものだ。

来年は昨年と同じくかなり不便な熊谷競技場での開催。関東と地方を隔年で開催していくとの方針が出ているらしいが、日本の陸上界の今後を考える時、地方の底上げにつながり非常にいいことだと思う。今回、我が部にしても数十人の部員が学生のトップレベル (種目によっては日本のトップ) の競技を目の前で見られたことは大きな刺激になったはずだ。各自すぐれた競技者の美しい身体の躍動を心に刻みつけたことだろう、今後の競技生活に是非活かしてほしいものだ。 また、今大会にエントリーしながら治療のため棄権せざるを得なかった女子三段跳の永久実伽子 (M1) にも来年に向けての再起に期待したい。

出場選手、それに懸命に応援した部員は本当にご苦労様。また連日応援に駆けつけてくれた OB 諸氏に心より感謝申し上げます。